

KangriGarupo 2009



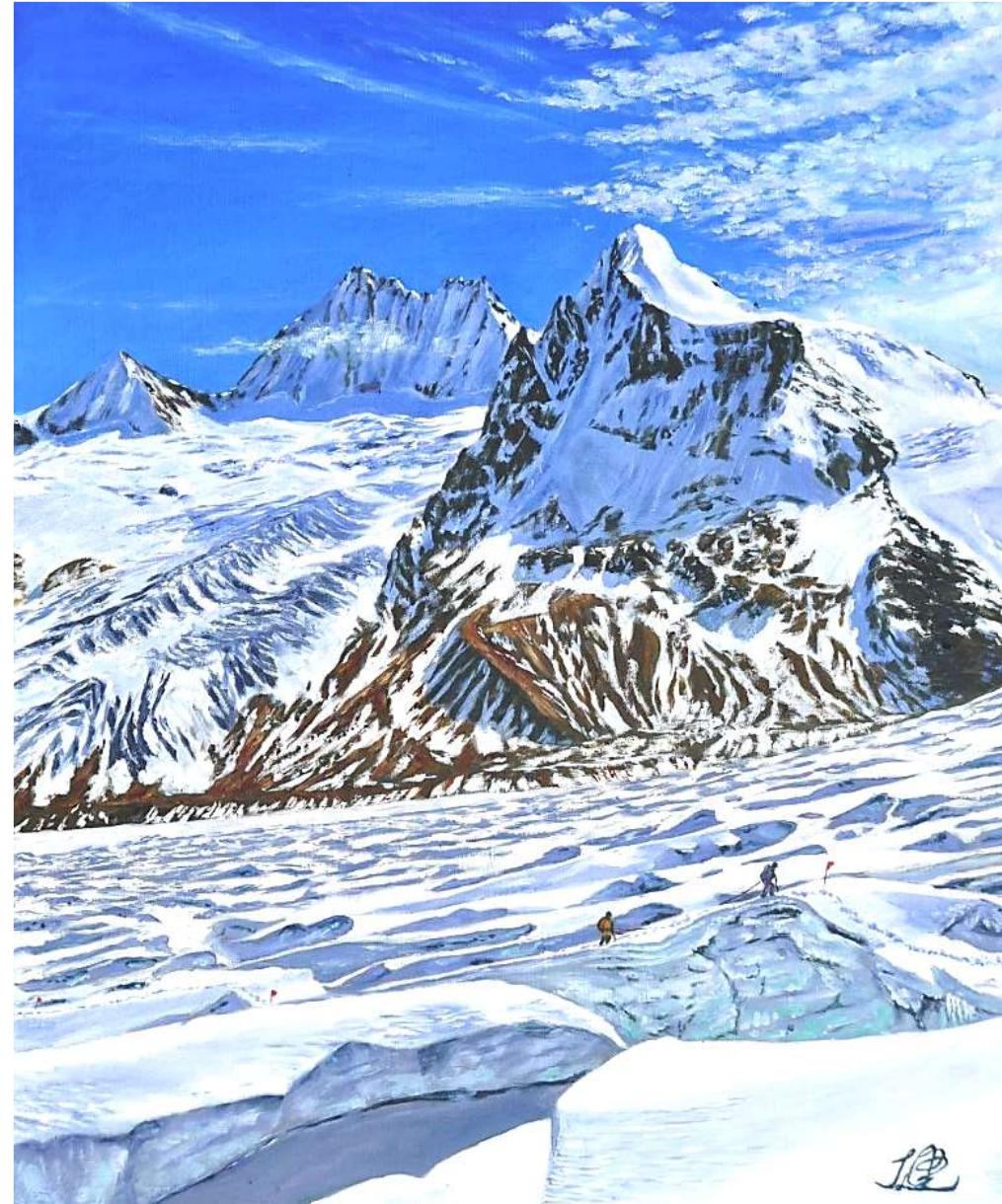
pic. 7 ラグー氷河 M 10号 2010

ラサを出発して3日目にラグーの集落に到着した。2007年の偵察以来2年振りの集落は小学校や集会所が新しくできていたが、そこから見えるラグー氷河の雄大な流れは少しも変わらない。ゴンヤダ、ゼー、ハモコンガ、そして30km奥の氷河源頭のゲムソングなどの峰々が超然として聳えている。

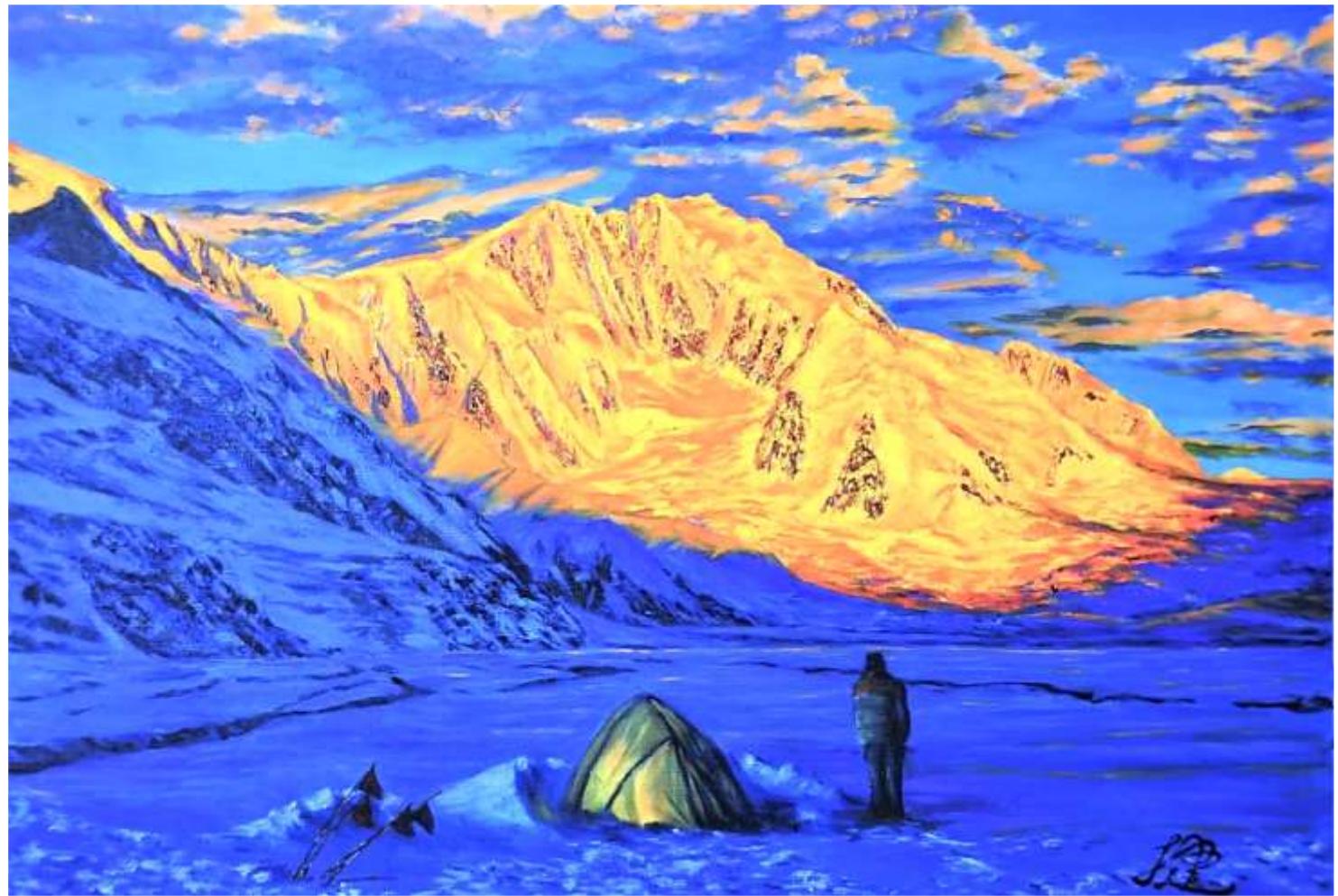
KangriGarupo 2009

pic. 8 アイスフォールに行く
F 20号 2010

デポキャンプからアドヴァンストベースキャンプ（ABC）へ荷揚げを行う。標高4500m付近にあるアイスフォールに入ると、まるで荒れ狂う大海原に行くような錯覚を覚える。背後にはシャナ峰が遙か高みから我々を見守っている。



KangriGarupo 2009



pic. 9 アタ氷河の夜明け M 20号 2010

アタ氷河 4700m 地点の A B C。夜明け、氷河の奥に聳える KG 3 の頂上部分に灯がともった
ように陽が当たると、見ている間にオレンジ色に輝く範囲が山頂からすそ野に広がっていき、
それにつれて輝きも増していく。地球が自転していることがわかる雄大な景観である。

KangriGarupo 2009



pic. 10 氷河の登高 F 20号 2012

A B C から第一キャンプ (C 1) への荷揚げ。先行する 2 隊員のトレースをひたすらたどる。前方を見るとガスが切れて K G 3 が驚くほど高さに巨体を現した。その壮大な氷の芸術品に荷揚げの苦しさを忘れしばし見とれた。

KangriGarupo 2009



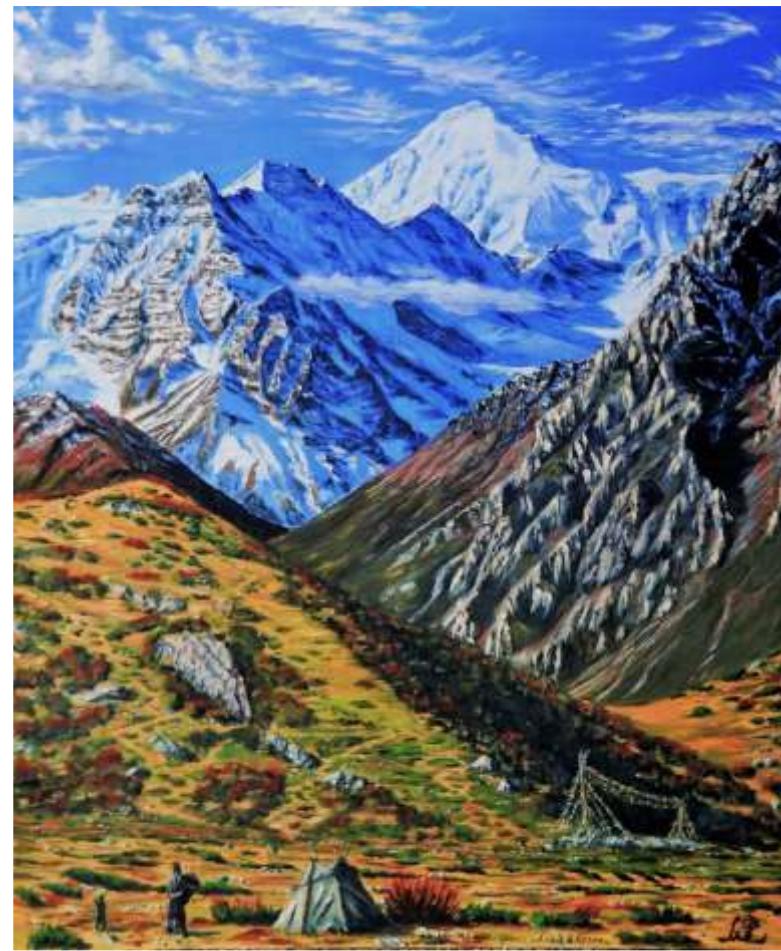
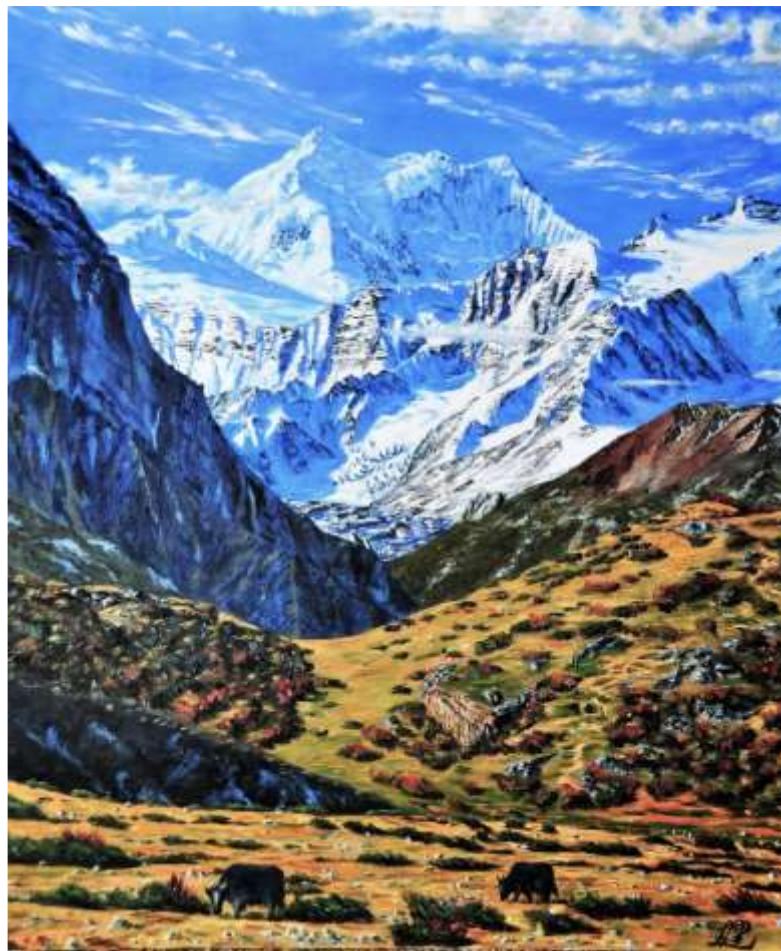
pic.11 頂上へ向かう朝

F 20 号 2019

いよいよ頂上攻撃を始める朝、C 1 では隊員が出発準備をしている。2 千m上空のKG 2 に陽が当たり始め、ヒマラヤ襞が花嫁のベールのように美しく輝く。満月がその右肩に沈もうとしている。

この三日後、ついに悲願の初登頂に成功することになる。

KangriGarupo 2009



pic. 12/13 チベット高原の片隅にて F 20号×2 2011

カンリガルボの山々に別れを告げるためにラウからザユール街道の高原に登り着く。初冬の澄み切った青い空をバックに最高峰ルオニイ（左；KG 1）と、つい先日我々が初登頂したロプチン（右；KG 2）が迎えてくれる。高原は灌木が紅葉し草原が黄金色に染まる。ここはチベットの東南の片隅。広大なチベット高原はここで尽き、カンリガルボの白い山々の向こう側はインド・アッサムの熱帯ジャングルへと続く。高原とジャングル、あまりにも違う二つの世界を隔てる偉大な山々である。



pic.14 夕照のヒマラヤ P 30号 2012

カンリガルポからラサへの帰り道、日没直前にセチラ峠に登り着いた。ナムチャバルワは東の方角に聳えていた。グレートヒマラヤの東端に君臨する巨大な山。高距3千メートルにおよぶ西壁いっぱいに夕陽を浴びて輝いていた。